

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 379 回 とっても困った 10 人の男たち

2010.8.22

今回は、小生が最も嫌いな男、10 人の話である。複数ページになってしまった事お詫びする。

1、時間を守れない男 狂った時計マン

時間を守らない奴は、だいたい決まっている。いつも平気で、遅れてくる。そういう彼は悪名高き「レツテル」になっていること、知るべきだろう。余程でない限り、時間は守れるものである。待たせるよりは待つ方がよっぽどいい。待つことも、尽くすこと、相手への思いやりである。

2、何でも避けて通る男 逃亡マン

チャレンジもせずに逃げていく。楽な方ばかりを探している。実年齢いくつであろうと、悲しき老人に間違いない。なぜなら、挑戦こそ人生の「進化へのエネルギー」であるから、やっぱり退化しかない。チャレンジして失敗することを恐れるより、何もしないことを恐れよ。照れない。逃げない。誤魔化さない。自分の弱さと向き合えば、きっと強い男になれる。

やりもしないうちに「出来ません」。そうではなくて「やる気がありません」と言っているのに、気が付いていない。自らダメ人間を公表していることなのだが、存在そのものが惨(みじ)めな人である。変化への抵抗の底にあるものは無知である。能力なら誰にでもある。違うのはその使い方。困難だから、やろうとしないのではない。やろうとしないから、困難なのだ。

3、人のせいにしたがる男 ぐれないマン

自分で何もやらないから人のせいにするしかない。自分の思う通りいかないから、文句ばかり言っている。やってくれない...がお題目の「ぐれない族」。

4、整理整頓が出来ない男 ババッチマン

俺の書斎は片付けてはならん！という文化人、学者はたくさん知っている。彼の机は書類の山。でもたぶん、彼の頭の中では整理整頓が出来ている。会社のデスクはそれと違う。企業機密、個人情報はお構いなしで、情報活用と言う意味では、煩雑で仕方がない。心と頭が整理整頓されていない、やたら汚い奴である。

5、コミュニティが取れない男 ディスココミュニティマン

何度言っても「ほう・れん・そう」が出来ない奴、これもいつも、決まっている。不信、不安、不明、不知、不満...「不」がつく言葉は、こんなタイプから発生する。明らかにブラックリスト人物である。今の世は、FAX に携帯電話、携帯メールに PC メールと、「連絡できませんでした」とはありえない世界。「報・連・相」のできない奴は、性癖になっているから、たちが悪い。

6、「人」を見ない、「心」が見えない男～愛のない **ラヴレスマン**

経済も、社会も、我々の活動はすべて「人」がやっているにも拘らず、「人」の気持ちが全くわからない。「気配り」「思いやり」「労り」「優しさ」とは無縁な「自己チュー」「KY」おじさん。世の中自分ひとりで生きていると思いついでいる困った人、組織や社会やコミュニティの最大の阻害要因である。

7、行動しない男～手足のない **ダルママン**

この手の奴に限って口八丁、手八丁。我々は実行して「なんぼ」の評価。有言不実行は最低の男、評論家になってテレビにでも出ていると言っておこう。心配とは、行動の不足から起こるものである。やりたいことをやるのではなく、やるべきことをやるのが男！！行動すればチャンスが見えてくる。運命は、チャンスでなく、それをどう選択するかで決まる。そのチャンスを出るだけ多く持つ。行動するしかないのである。黙って実践するのが男の美学。「男は黙ってビール」懐かしいCMである。

8、考えない男 **ノータリンマン**

指示待ち人間、自分では何も考えられない、文字通り「アホ」としか言いようがない。仕事は探してやるものだ。自分が創り出すものだ。それが出来なきゃ、仕事がない。世の中で一番寂しいことは、する仕事のないこと、給料泥棒と呼んでみたい。

9、基本の出来ない男 **滑稽パフォーマンスマン**

基本がないうちに、受けを狙ってパフォーマンスするタイプ、滑稽としか言いようがない。個性、独創性、匠（たくみ）とは、すべて基本をマスターした人がなせる技（わざ）であること、知るべしである。自分では何でもわかっていると思う段階に到達した人は、スタート地点に立ったばかりの人である。上には上がある。

10、粘り気のない男 **根性レスマン**

根性、辛抱、忍耐とは無縁のタイプ。鍛練（たんれん）、修行（しゅぎょう）、苦行（くぎょう）、イヤイヤ努力さえやったことがない軟弱男、鳥肌が立つ思いである。目の輝きがなく、人としての厚みもない、燃える様なパワーも熱意も何もない、世の中ついでに生きている。そんな男、どこに魅力あるのか？ 忍耐強ければ、それは必ず知識と知恵の源泉となる。

良く考えるとこんなタイプの人、最近、女性より男性に多いかもしれない。

とっても困った、10人の男たちである。

これがすべて「草食系」とは言わないが、男らしい男がいなくなったのも、寂しい限りである。

いや逆に、こんなギラギラしたような男がすぐ傍にいたら、いまどきの女性は敬遠するかもしれない。

女性に頼り、甘えてくる、「バター顔」「チーズ顔」のかわいい坊やが好き...どこかのカフェで、そんな話で盛り上がっている光景を思い出した。

もはや男は、女性のペットかも??

良い、悪いは分らんが、会社でも普段の生活でも、これが今の日本の現状である。